

# 環境経営レポート

## 【2019年度】



対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日  
発行日：2020年6月30日

1. 環境方針	．．．	3
2. エコアクション21機構図（適用範囲）	．．．	4
3. 主な環境経営活動計画（部署別）	．．．	5
4. 主な環境経営活動（その他）	．．．	6
5. 実績と環境経営目標	．．．	7
6. 環境経営活動の達成状況 評価及び2020年度の取組	．．．	8～10
7. 環境性能の向上サービスの改善 評価及び2020年度の取組	．．．	10
8. 環境関連法規の順守状況と関連事項	．．．	11
9. 代表者による全体評価と見直し結果及び指示事項	．．．	12

## 《基本理念》

株式会社ナガノトマトは、豊かな自然環境に恵まれた信州松本の地で、安全で安心な食料品の製造を行っています。このかけがえのない信州の自然を次の世代に引き継いでいくため、環境保全に対する認識を深め、あらゆる環境負荷の低減に取り組めます。

## 《基本方針》

1. 当社の事業活動において環境に与える影響を考慮し環境目標を定め、全社員が環境保全に取り組む、環境マネジメントシステムによる環境汚染の予防と継続的改善に取り組めます。
2. 下記の項目については、優先的に取り組めます。
  - ・省エネルギーの推進
  - ・省資源・生産性向上の推進
3. 環境関連の法律・規制・協定を順守します。

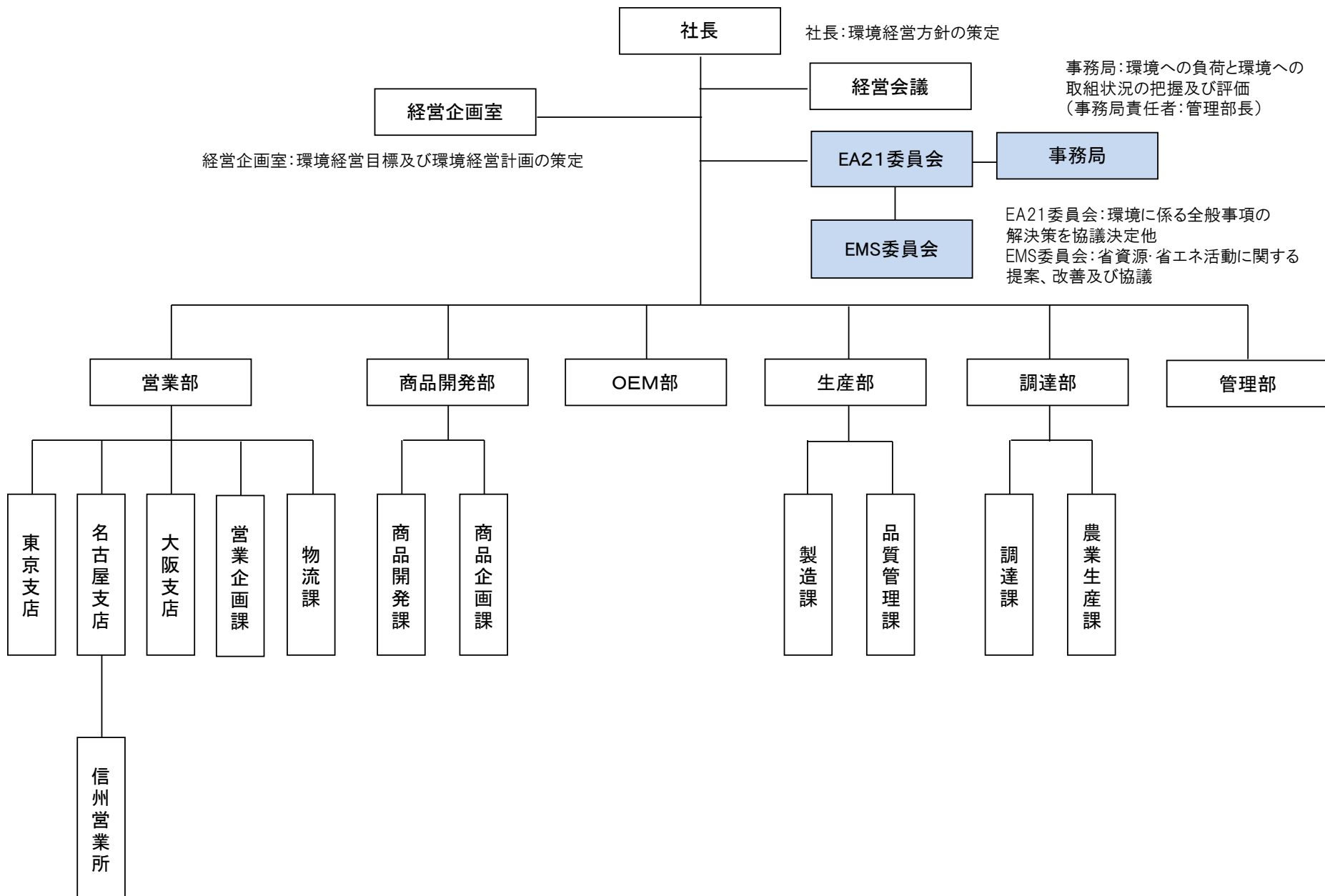
2019年8月1日



株式会社ナガノトマト  
代表取締役社長

井垣孝夫

# エコアクション21機構図(適用範囲)



# 主な環境経営活動計画(部署別)

全社目標	関連目標	対応部署					
		製造課	品質管理課	調達課	管理部	営業部	OEM部
二酸化炭素 排出量削減	生産性向上委員会継続	○		○			
	改善活動推進	○					
	工程内品質トラブル削減	○	○				
	加工技術・新容器・原料等探索						○
	新生産システム安定稼働による消費電力削減	○			○		
	物流業務システム改善による消費電力削減				○	○	
環境 負 荷 低 減	なめ茸前処理コスト50%削減PJ継続	○	○	○			
	廃棄ロス低減	○				○	○
	改善活動推進	○					
	工程内品質トラブル削減	○	○				
	原材料トラブル削減				○		
	環境負荷低減に繋がる提案				○		
	処方・工程・設備の見直しを含むコスト低減提案						○
水 使用量削減	生産性向上委員会継続	○	○	○			
	改善活動推進	○					
食品廃棄物等 発生量削減	なめ茸前処理コスト50%削減PJ継続	○	○	○			
	廃棄ロス低減	○				○	○
	改善活動推進	○					
化学物質 使用量削減	工程内品質トラブル削減	○	○				
	生産性向上委員会継続	○	○	○			
	改善活動推進	○					
サ ー 境 ビ 性 能 の 改 善	生産性向上委員会を定期開催し、部署間に跨る案件の改善活動の推進	○	○	○			○
	製品梱包用カーターの仕様変更により、カートン原料の大幅に削減			○			
	BCP計画書の充実と計画的な教育訓練の継続的な実施				○		

## ■EMS委員会の開催

・EMS目標の進捗管理、廃棄物排出実績及びエネルギー使用状況報告、是正措置の決定、工程内廃棄ロス削減による廃棄物排出量の削減、各部署における環境負荷低減活動報告等を月1回開催。

## ■非常事態訓練の実施

・6/17:排水訓練 ・9/24:タンク原料流出訓練

## ■社員教育の実施(EA21推進に向けて)

・8/19:本社 ・9/6:名古屋大阪支店  
・9/19:東京支店 ・10/3:物流課



8/19社員教育

## ■環境トピックス(社内向け情報)の発信(四半期毎)

・6/12 ・9/12 ・12/4 ・3/13



6/12環境トピックス

## ■環境美化活動の実施 (本社構内,構外清掃活動)

・5/30 ・6/27 ・7/25 ・9/26



9/24非常事態訓練

## ■フロン使用機器簡易点検の実施

・6,9,12,3月:各部署にて

全社目標	目標値	単位	2018年度	2019年度			2020年度	2021年度	2022年度
			基準年度	目標	実績	達成状況	目標	中期目標	中期目標
二酸化炭素排出量削減 *1)		kg-CO <sub>2</sub> /t	173.97	172.23	168.23	○	166.51	164.84	163.19
廃棄物排出量削減 *2)		kg/t	48.18	47.69	52.91	×	52.43	51.91	51.39
水使用量削減 *3)	前年比 原単位 1%削減	m <sup>3</sup> /t	13.03	12.90	13.73	×	13.60	13.46	13.33
食品廃棄物等発生量削減 *4) 及びリサイクル率100%維持		kg/t	5.50 100%	5.44 100%	5.64 100%	×	5.59 100%維持	5.53 100%維持	5.47 100%維持
化学物質使用量削減 *5)		kg/t	0.6115	0.6054	0.5639	○	0.5578	0.5523	0.5467

サ  
|  
環  
|  
境  
|  
性  
|  
能  
|  
の  
改  
向  
善

生産性向上委員会を定期開催し、部署間に跨る案件について改善活動を進めています(生産部・調達部・商品開発部)  
製品梱包用カーターの仕様を変更し、カーター重量を約13%/枚削減することにより、カーター原料の大幅削減に繋がりました(調達部)  
BCP計画書の充実と計画的な教育訓練を継続的に実施しています(管理部)

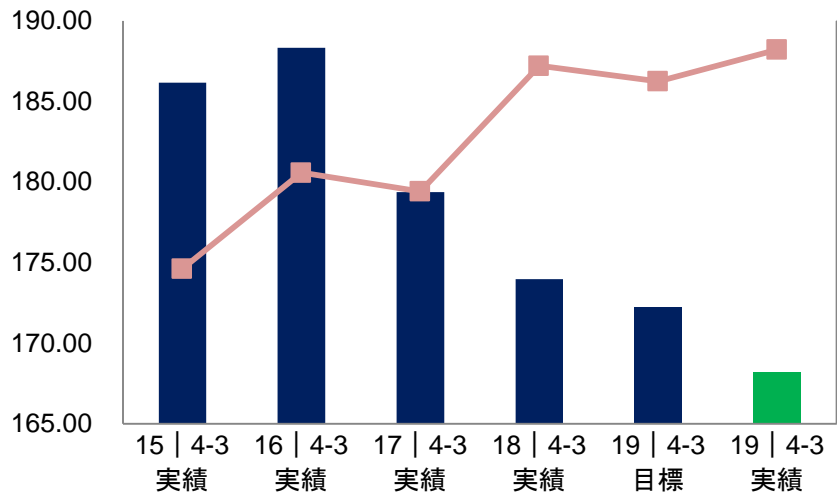
\*1)二酸化炭素排出量算出対象:本社・工場の使用エネルギー・物流課・各支店の使用エネルギーの合計数値です  
電力の二酸化炭素排出係数:電気事業連合会公表数値 0.423t-CO<sub>2</sub>/kWh(2005年)を使用しています

\*2)\*3)本社・工場の合計数値です

\*4)本社・工場、物流課の合計数値です

\*5)工場の数値です

# 環境経営活動の達成状況 評価及び2020年度の取組①



## ■二酸化炭素排出量削減

【評価(2020年3月末):○】

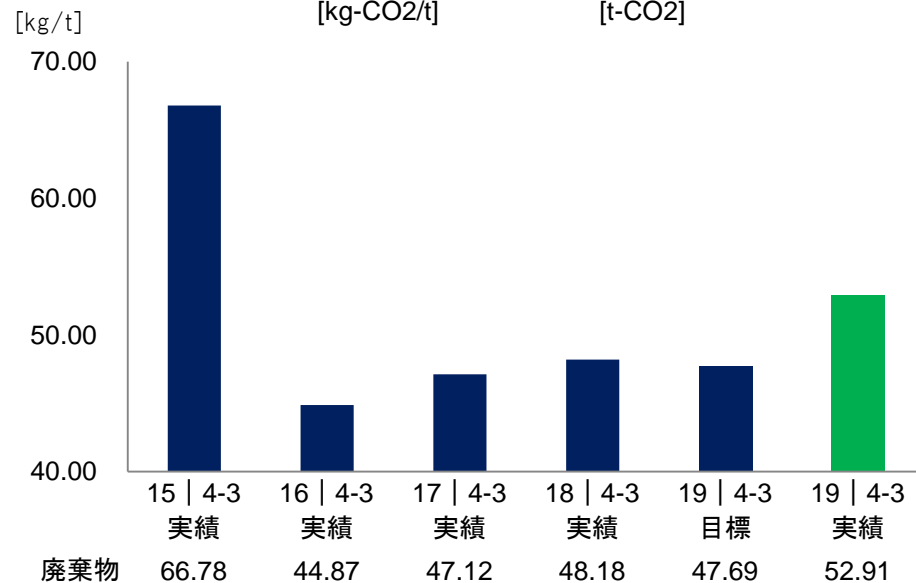
2018年度に対して原単位1%削減を目標に設定しました。3月末で18年度対比約3.3%の削減となりました。主な要因として生産効率の改善が更に進みましたが、二酸化炭素の排出量は若干増加しました。

## 【2020年度の取組】

蛍光灯からLED照明への交換を引き続き推進し、消費電力の更なる抑制を図ります。  
(新設工場では全てLED照明を採用)

CO2排出原単位 [kg-CO2/t]	186.16	188.32	179.39	173.97	172.23	168.23
CO2排出量 [t-CO2]	2,031	2,174	2,146	2,333	2,310	2,357

■ CO2排出原単位 [kg-CO2/t]    ■ CO2排出量 [t-CO2]



## ■廃棄物排出量削減

【評価(2020年3月末):×】

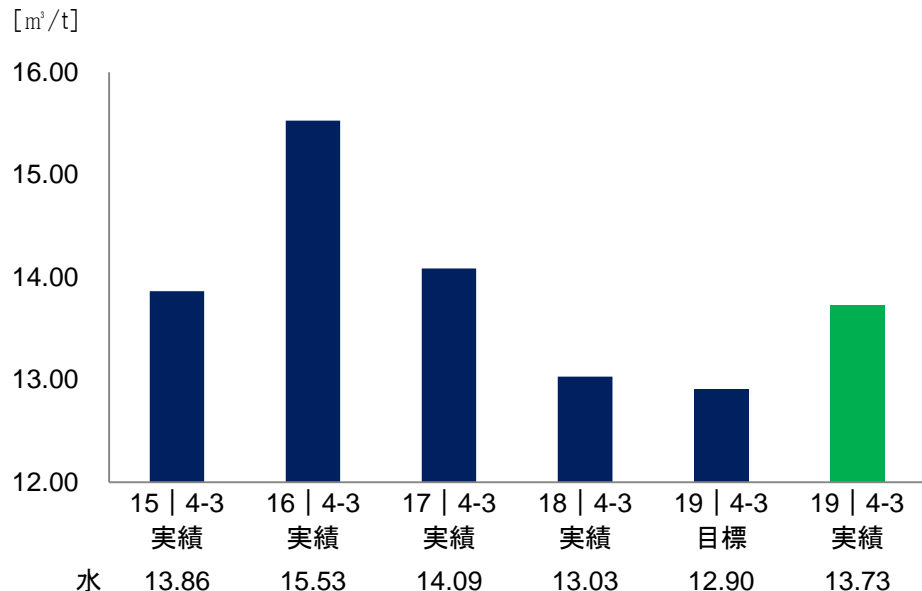
2018年度に対して原単位1%削減を目標に設定しました。3月末で18年度対比約9.8%の増加となりました。主な要因として、これまで無償や有価物で引き取って頂いた物が期中より産廃扱いとなり、排出量が増加しました。

## 【2020年度の取組】

工程トラブル等で発生する梱包資材ロス(フィルム・ダンボール)を低減し、廃棄物排出量の削減を図ります。また再利用可能な原料容器の使用比率を上げることにより、廃棄物排出量の削減を図ります。

廃棄物	66.78	44.87	47.12	48.18	47.69	52.91
-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------





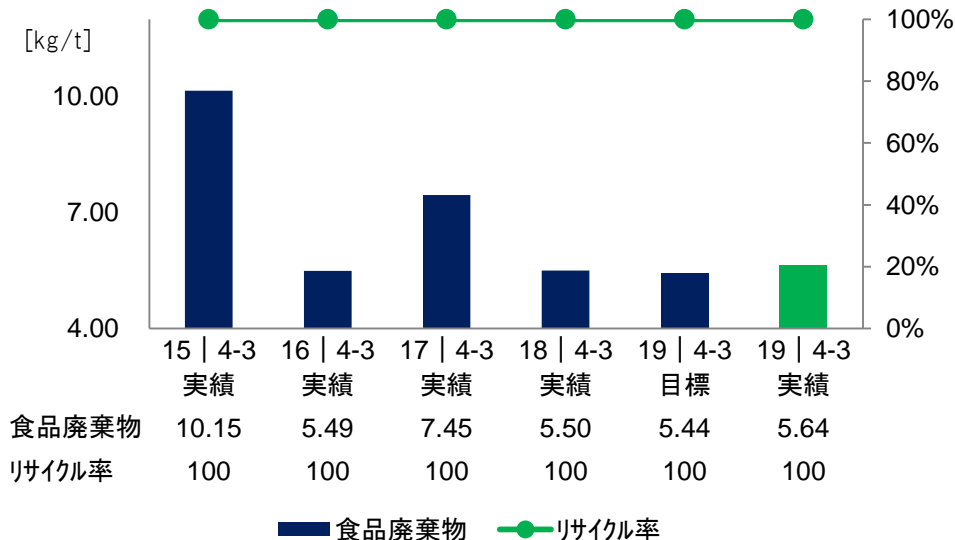
## ■水使用量削減

【評価(2020年3月末): ×】

2018年度に対して原単位1%削減を目標に設定しました。3月末で18年度対比約5.4%の増加となりました。主な要因として、生産アイテムの構成変化に伴い製品冷却水の使用量が増加しました。

## 【2020年度の取組】

各部署で使用している冷却槽の冷却水使用時間を可能な限り減らすことで、水使用量削減を図ります。



## ■食品廃棄物等発生量削減

【評価(2020年3月末): ×】

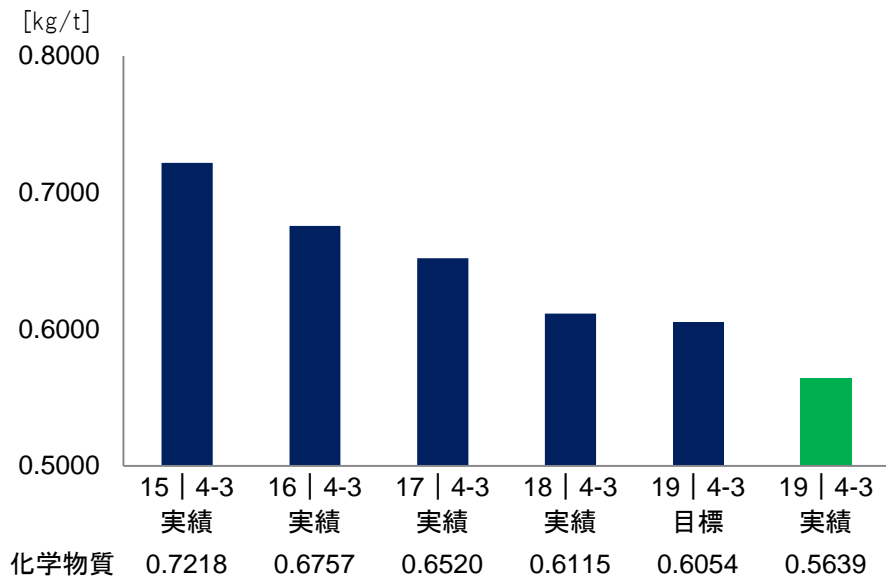
2018年度に対して原単位1%削減を目標に設定しました。3月末で18年度対比約2.5%の増加となりました。主な要因として、当社製品の品質を維持する為、主原料の選別工程でロスの発生が増加しました。

## 【2020年度の取組】

原料の仕入先との調整を密に行い、仕入先並びに自社内での原料退化を抑えることで、廃棄量削減を目指します。

### <2018年度\_食品廃棄物等発生量及び再資源化等実施率>

- ・発生量:58.2t ・有価物量:0t ・発生抑制量:353.0t
- ・再生利用量:58.2t ・熱回収量:0t ・減少量:0t
- ・再利用等以外の量:0t ・廃棄物としての処分量:0t
- ・再生利用等の実施率:100.0%



## ■化学物質(苛性ソーダ)使用量削減

### 【評価(2020年3月末):○】

2018年度に対して原単位1%削減を目標に設定しました。3月末で18年度対比約7.8%の削減となりました。主な要因として、効率的な製造が出来ており、使用量が削減されております。

### 【2020年度の取組】

効率的な製造体制を維持することにより、更なる使用量削減を目指します。

# 環境性能の向上及びサービスの改善 評価及び2020年度の取組

## ・生産性向上委員会を定期開催し、部署間に跨る案件の改善活動の推進

【2019年度の評価:○】委員会を毎月開催し、5件/年を目標に改善活動を推進した結果、5件の改善を行いました。  
 【2020年度の取組】委員会を継続し、生産性向上に向けた取組として改善活動を推進し、7件/年の改善を行います。

## ・原材料見直しによる環境負荷低減活動の検討実施

【2019年度の評価:○】カートの仕様変更により、2018年度より約25tのカートン原料を削減しました。  
 【2020年度の取組】環境負荷低減に繋がる提案(資材・包材等)を探索します。

## ・BCP計画書の充実と計画的な教育訓練の継続的な実施

【2019年度の評価:○】7月計画書改定及び災害対策本部模擬訓練、10月BCP一般教育訓練及び安否確認訓練を実施しました。  
 【2020年度の取組】事業継続計画書の充実と、計画書に沿った教育訓練を継続します。

主な適用法規等	当社の順守状況
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の新設なし (過去のばい煙に対する汚染負荷量賦課金の支払)
フロン排出抑制法	フロン機器の点検4回/年、定期点検1回/年の実施 フロン機器の廃棄時のフロンガス回収に対しての順守
水質汚濁防止法	排水処理の排出基準において超過なし
容器包装リサイクル法	再商品化義務量の報告 再商品化実施委託料の支払
廃棄物処理法 (一般廃棄物・産業廃棄物)	松本地域振興局環境課へ報告書提出 (6月) (マニフェストの交付に関する報告書の提出)
食品リサイクル法	前年度の食品廃棄物等の発生量が100t未満の為 関東農政局へ報告書は提出せず
騒音規制法	特定施設の新設なし
振動規制法	特定施設の新設なし
工場立地法	届出済
特定工場法 (公害防止組織法)	公害防止管理者 (大気四種) 選任

順守状況確認日：2020年3月31日

環境関連法規の順守に関して、過去3年間法令等の違反はありません。また関係当局よりの違反等の指摘はありません。

## 【環境方針・環境目標・環境計画及び実施体制変更の必要性】

- ・環境方針 変更なし
- ・環境目標・環境計画 全体目標を踏まえ、各部署で目標の落とし込みと、四半期ごとの実施計画を作成すること。
- ・実施体制 変更なし

## 【統括的な見直し指示】

- ・廃棄物排出量、水使用量、食品廃棄物発生量が前年に比べ悪化しているので、原因追究を行い、来年度の目標値の検討を行うこと。

## 【2020年度の取組】

- ・環境負荷低減の為に、二酸化炭素排出量削減、廃棄物排出量削減、水使用量削減、食品廃棄物等発生量削減及びリサイクル率100%維持、化学物質使用量削減に引き続き取り組む。
- ・新工場稼働に伴う省エネルギー施策を検討し、実施する。
- ・環境に配慮した製品づくりの為、新規加工技術・新容器・原料等探索及び検討する。